

学び、現場で育つ

桐生・みどりの次世代薬剤師

「薬剤師になりたい」——そう思ったとき、まず思い浮かぶのは「薬学部への進学」ではないでしょうか。薬剤師になるには、薬学部で6年間学び、薬剤師国家試験に合格する必要があります。

かつて薬学部は4年制でしたが、2006年からは6年制へと移行しました。背景には医療技術の高度化や医薬分野の発展があり、薬剤師には単に薬を調剤するだけでなく、患者さんに寄り添いながら健康を支える医療チームの一員として、より高度な役割が求められるようになったのです。つまり、薬剤師は「医療の担い手」として、より大きな責任と信頼を担う職業人へと位置づけられています。

そのため、現在の6年制薬学教育では、医師と同様に臨床現場での実践的な学びが重視されています。薬局や病院での実習は、学生にとって非常に貴重な経験であり、実際の医療現場で知識だけでなく、迅速な判断力や医師・看護師との円滑なコミュニケーション力を身につける機会となっています。

当院でも、薬学生の実習を積極的に受け入れています。処方箋調剤や医薬品の在庫・品質管理、抗がん剤の準備に加え、病棟業務や他の医療職と連携したチーム医療への参加など、実際の医療現場を体感できる環境を整えています。特に、学生一人ひとりが「自ら考えて行動する力」を養えるよう、丁寧な指導を心がけています。

こうした実習の積み重ねが、次世代の薬剤師を育て、ひいては桐生・みどり地域の医療の質向上につながると信じています。

さらに今年度からは、群馬県の委託を受け、「高校生のための薬剤師体験セミナー」を開催する運びとなりました。これは、将来薬剤師を志す高校生が、早い段階で現場を知り、自分の進路について具体的に考えるきっかけとなることを目指した取り組みです。体験を通じて「薬剤師とは何か」「どのような現場で、どのように働くのか」を理解し、志をさらに高めてもらえたらと願っています。

学生の成長を支え、地域の医療を守ることは、私たちにとって大きなやりがいのある仕事のひとつです。私たち薬剤師の取り組みに関心を持っていただけましたら幸いです。

【薬剤師 松井 朋子】

